2026 11.28 (土) 開演時間 15:00

アクロス福岡シンフォニーホール
ACROS Fukuoka Symphony Hall

第444回 定期演奏会

The 444th Subscription Concert

「ギターを鳴らせ！ 大地よ歌え！」

指 揮 Conductor	**シモーネ・メネセス** Simone Menezes	合唱 Chorus	**九響合唱団** The Kyushu Symphony Choir
ギター Guitar	**山下 愛陽** Kanahi Yamashita		**九州大学男声合唱団コールアカデミー** Kyushu University "Chor Akademie"
桂冠コンサートマスター Concertmaster Laureate	**豊嶋 泰嗣** Yasushi Toyoshima	合唱指揮 Chorus Conductor	**横田 諭** Satoshi Yokota

モーリス・ラヴェル Maurice Ravel	道化師の朝の歌 Alborada del gracioso
エイトール・ヴィラ＝ロボス Heitor Villa-Lobos	ショーロスへの序奏／ショーロス 第１番 Introduction to the Choros ／ Choros No.1
	休憩　Intermission
クロード・ドビュッシー Claude Debussy	管弦楽のための『映像』より「イベリア」 Iberia from Images Ⅰ. Par les rues et par les chemins Ⅱ. Les parfums de la nuit Ⅲ. Le matin d'un jour de fête
エイトール・ヴィラ＝ロボス（シモーネ・メネセス編） Heitor Villa-Lobos (arr. Simone Menezes)	ブラジル風バッハ第４番より前奏曲（編曲版世界初演） Bachianas Brasileiras No.4:Prelúdio
エイトール・ヴィラ＝ロボス Heitor Villa-Lobos	ショーロス 第10番 Choros No.10

主催：(公財)九州交響楽団
助成：福岡県・福岡市・文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業（公演創造活動））
｜独立行政法人日本芸術文化振興会・(公財)三菱UFJ信託芸術文化財団・(公財)朝日新聞文化財団
後援：福岡県・福岡市・(公財)福岡市文化芸術振興財団・NHK福岡放送局
(公財)九州文化協会・福岡文化連盟・九響後援会・日本ヴィラ＝ロボス協会
協力：(公財)アクロス福岡
特別協賛：福岡国際音楽大学

プレトーク

開演30分前から約10分間、指揮者によるプレトークをお楽しみください。

楽団員お見送り

本公演終了後に出口付近にて楽団員有志がみなさまをお見送りいたします。

九響交流カフェ

1ドリンク＆おつまみ付き／参加費500円

終演後、コンサートホールロビーにて、九響交流カフェをオープンします。参加申込みは開場後ロビー九響受付にて。お気軽にご参加ください。(先着30名)



©Daniela Cerasoli

指 揮　シモーネ・メネセス
Conductor　Simone Menezes

高いプログラム構成力と音楽性を備えたフランスを拠点とする指揮者。ブラジル生まれでイタリアのルーツを持つ彼女は、自身を様々な音楽の伝統と芸術分野を結びつける架け橋と捉えており、そのレパートリーは古典派の作曲家から、チャイコフスキーやフランス印象派、ラテンアメリカの作品まで多岐にわたる。

プログラムの構成と芸術性を重視しており、自身が創設し率いるアンサンブルKとプロジェクト「メタノイア」を制作し、2023年国際クラシック音楽賞で最優秀ビデオ賞を受賞。また、ブラジル人写真家のセバスチャン・サルガドの写真とフィリップ・グラスとヴィラ＝ロボスの作品を組み合わせたプロジェクト「アマゾニア」は、その後世界中の15以上のオーケストラで再演。日本にも度々訪れており、2025年にはカルティエのサポートを得て、万博関連公演として大阪フィルとファジル・サイ《Mother Earth》協奏曲の世界初演を果たした。近年は、LAフィル、パリ管、フィルハーモニア管、フランクフルト放響、ケルン・ギュルツェニヒ管、ウィーン放響など、数々の著名オーケストラと共演を重ねている。

メネセスはサンパウロとパリで学び、英国王立音楽院でコリン・メッターズに師事。パーヴォ・ヤルヴィのアシスタントも務めた。ラテンアメリカで成功を収めた後ヨーロッパに拠点を移し、以来、精力的に国際的な活動を続けている。

Brazilian-born conductor Simone Menezes, of Italian heritage and based in Paris, is recognized for her distinctive musicality and visionary programming, connecting diverse musical traditions and artistic disciplines. Her repertoire encompasses works by Classical composers, Tchaikovsky, the French Impressionists and Latin American composers. She founded Ensemble K and created the Metanoia project. Metanoia received the prize for "Best Video in Performance & Documentaries" at the International Classical Music Awards 2023. Her Amazonia project, combining photographs by Sebastião Salgado with music by Philip Glass and Heitor Villa-Lobos, has been performed with more than 15 orchestras worldwide. She studied in São Paulo, Paris and at the Royal Academy of Music, served as an assistant to Paavo Järvi, and has conducted the Los Angeles Philharmonic, Orchestre de Paris and the Philharmonia Orchestra.



©HIROMI HOSHIKO

ギター　山下 愛陽
Guitar　Kanahi Yamashita

1997年長崎県生まれ。ギタリストの父・山下和仁、作曲家の母・藤家溪子のもとで音楽を学ぶ。幼少より「山下和仁ファミリークインテット」の一員として世界各地で演奏し、父とのデュオでもアジア、欧米諸国で公演を重ね、13歳でイタリア・トリノにてソロデビュー。2015年に渡独し、ベルリン芸術大学でT.ミュラー＝ペリング、ニュルンベルク音楽大学でB.コレルに師事。2026年、国家演奏家資格課程を最高点で修了。

現在はベルリンを拠点に、欧米・アジア各地の音楽祭に招かれ、ソリストおよび室内楽奏者として国際的に活動している。これまでに東京都交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、九州交響楽団などと共演。2026年、第35回出光音楽賞受賞。2025年にはフルート奏者とのデュオでゲルハルト・フォークト室内楽国際コンクールにて優勝。2017年ARDミュンヘン国際音楽コンクール・セミファイナリスト、2019年ドイツギター賞ほか国際コンクールで受賞多数。バイエルン放送「On Stage」、NHK-FM「リサイタル・パッシオ」などに出演。2016―18年度ヤマハ音楽振興会、2020・21年度ロームミュージックファンデーション奨学生。ソロアルバムに『東洋の真珠』、『夜想の旅』。2021年よりD'Addarioアーティスト。

Kanahi Yamashita (b. 1997, Nagasaki) began performing internationally at an early age with the Kazuhito Yamashita Family Quintet and in duo with her father, making her solo debut in Turin at 13. Based in Berlin since 2015, she studied with Prof. T. Müller-Pering and Prof. B. Colell and completed her Konzertexamen with the highest distinction in 2026. She appears internationally as a soloist and chamber musician and has performed with the Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra, Japan Philharmonic Orchestra and Kyushu Symphony Orchestra. She received the 35th Idemitsu Music Award in 2026, was a semi-finalist at the 2017 ARD International Music Competition, and won the German Guitar Prize in 2019. Her solo discography includes a Domeniconi album (2021) and "nocturnal journey" (2026). She has appeared on Bayerischer Rundfunk's On Stage and NHK-FM's Recital Passio, and has been a D'Addario Artist since 2021.



合唱　九響合唱団
Chorus　The Kyushu Symphony Choir

九響合唱団は、九州交響楽団の永久名誉音楽監督・故石丸寛氏の提唱により、九響と合唱付きの楽曲を共演する専属合唱団として1996年1月に発足した。合唱指揮は、初代 三浦宣明（九響合唱団 永久名誉合唱指揮者）の後を承け、2013年から横田諭が務めている。合唱団のさらなる成長を目指し、2018年に声楽家の八木寿子をヴォイストレーナーに迎えた。九響の定期演奏会、「第九」公演やニューイヤーコンサートのほか、2017年から3年にわたって開催された熊本地震復興祈念演奏会をはじめとした各地の公演へも積極的に出演し、九州の音楽文化の発展を支える合唱団としての役割を果たすべく、日々研鑽を積み重ねている。

The Kyushu Symphony Choir was founded in January 1996 at the initiative of the late Hiroshi Ishimaru, Eternal Honor Music Director of the Kyushu Symphony Orchestra, as the Orchestra' s affiliated chorus dedicated to performing choral-orchestral works with the KSO. Satoshi Yokota has served as Chorus Master since 2013, succeeding the Choir' s founding Chorus Master, Noriaki Miura, who is now its Eternal Honor Chorus Master. In 2018, the vocalist Hisako Yagi was appointed Voice Trainer to support the Choir' s continued artistic development. In addition to the KSO's subscription concerts, performances of Beethoven' s Ninth Symphony, and New Year concerts, the Choir actively appears in concerts throughout the region, including the series of commemorative concerts held over three years from 2017 in support of recovery from the Kumamoto earthquakes. Through its ongoing musical training and artistic growth, the Choir strives to fulfil its role in promoting and enriching the musical culture of Kyushu.



合唱指揮
Chorus Conductor

横田 諭
Satoshi Yokota

福岡出身。1980年九州大学理学部入学、同大学院修士・博士課程進学。在学中に九州大学男声合唱団コールアカデミーに所属し、学生指揮者を務め、作曲家の藤井凡大氏、指揮者の荒谷俊治氏（前日本指揮者協会会長）より音楽のみならず幅広い分野での指導を受ける。また石丸寛氏主催の石丸指揮塾に参加。現在、九響合唱団指揮者の他、福岡コール・フェライン音楽監督、Chor Solfa! 元締め、女声合唱団コール・エスポワール常任指揮者、ちくしの混声合唱団常任指揮者を務める。2025年11月、九響合唱団の桂冠合唱指揮者に就任。

Satoshi Yokota was born in Fukuoka, has completed the Master' s course and the Doctoral course which entered the Kyushu University department of science in 1980. In college, belonged to Kyushu University male choir Chor Academy and acted as a student conductor. Since then, had instructions by the wide field as well as music from composer Bondai Fujii and conductor Shunji Aratani. At Ishimaru Conductor Juku (private lesson) sponsored by Hiroshi Ishimaru learned conducting. Currently, conductor of The Kyushu Symphony Choir, Fukuoka Chor Verein, Chor Solfa!, female chorus Chor Espoir, Chikushino mixed chorus, and so on. Appointed Laureate Chorus Conductor in November 2025.

合唱団メンバー紹介 Choir Members

九響合唱団

【ソプラノ】
Natalie Marie Miller
板谷 しのぶ
伊藤 陽子
岩田 純子
岩谷 ひろみ
上野 玲子
河崎 恵子
神崎 奈々絵
高口 富美子
幸田 さつき
児島 美保
兒玉 容子
坂本 純子
髙橋 由美
竹内 美祝
中山 美智子
成田 希久子
西村 五月
羽野 恵美
林 真実
平田 由佳
福崎 美桜
吉牟田 雅子
米村 香
渡邊 美沙

【アルト】
秋枝 寿栄
石橋 美和
牛込 貴美子
大森 佳代子
岡村 文重
古賀 由乃
堺 亜希子
坂元 日向
杉本 京子
髙木 美沙
高山 弘恵
土岐 由美子
永堀 寿美子
中村 末央
西 元子
坂東 愛美
平井 典子
戸次 芳子
丸田 佳奈子
村上 真理
山田 美穂
芳川 かおり

【テノール】
北川 博英
早川 雅國
廣澤 稔彦
松原 太洋
村上 浩之
山口 聡
脇田 信一

【バス】
岡村 聡
落合 道夫
國分 健治
坂田 肇
篠﨑 和弘
園田 竜太
高井 和彦
中村 信一郎
松本 毅

永久名誉合唱指揮者
三浦 宣明

桂冠合唱指揮者
横田 諭

ヴォイストレーナー
八木 寿子

ピアノ
岡本 えり／大城 綾子

代表兼インスペクター
篠﨑 和弘

総務
落合 道夫

副総務
兒玉 容子

サブ・インスペクター
山田 美穂

会計
吉牟田 雅子

パートリーダー
羽野 恵美／坂東 愛美
北川 博英／松原 太洋
森時 達行／中村 信一郎

パートマネージャー
岩谷 ひろみ／上野 玲子
杉本 京子／永堀 寿美子
脇田 信一／坂田 肇

九州大学男声合唱団コールアカデミー

【テノール】
Rathindra Nath Karmakar
池田 貫太郎
上田 実
尾嶋 蛍蔵
上村 弥正
岸本 聖人
小西 遼弥
小森 陽登
佐塚 仁
司城 智寛
杉尾 優慈朗
高倉 新平
田尻 大空
中宮 敏和
森田 伸一
山口 和彦

【バス】
石倉 英駿
大供 達哉
大野 舜悉希
柏野 匠音
後藤 有輝
住田 寛樹
関根 賢次朗
徳井 広泰
戸島 浩之
永田 悠人
西川 昴佑
原田 大輔
龍官 尚叡

*九州大学男声合唱団コールアカデミーは、九州交響楽団公認の九響合唱団オフィシャルパートナーです

第444回 定期演奏会
The 444th Subscription Concert

解説 長野 俊樹
音楽学／福岡教育大学名誉教授

道化師の朝の歌

モーリス・ラヴェル（1875 ― 1937）

これはラヴェルが作曲したピアノ独奏曲を、自分自身でオーケストラ版に編曲した作品である。ピアノ独奏用組曲『鏡』という、超絶技巧を要する全5曲からなる作品の第4曲が原曲である。原題はスペイン語で、和訳の「朝の歌」にあたる語は、日本の平安時代の和歌に置き換えると「後朝（きぬぎぬ）の歌」、つまり一夜を共にした男女が夜明けを迎えて別れるとき、男が女に贈る音楽であり、「道化師」はスペイン喜劇でおなじみのいたずら者である。6/8拍子中心、三部形式。両端の主部（十分に生き生きと）はファンダンゴのリズムで、ギターを模した弦楽器のピッツィカートや、カスタネットなどの打楽器がスペイン色を出す。中間部が「朝の歌」。より遅くと指示され、ファゴットが気だるい歌を奏でるのは、おそらく「後朝」だからなのだろう。

作曲：1904 ― 05年（ピアノ独奏版組曲）、1918年（管弦楽編曲版）
初演：1906年1月6日、パリ、リカルド・ビニェスによる（ピアノ独奏版）、
1919年5月17日、パリ、ルネ・バトン指揮、パドルー管弦楽団（管弦楽版）
使用楽譜：Kalmus
編成：フルート3（ピッコロ持替）、オーボエ2、イングリッシュホルン、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、テューバ、ティンパニ、大太鼓、小太鼓、シンバル、トライアングル、タンバリン、カスタネット、シロフォン、クロテイル、ハープ2、弦5部

ショーロスへの序奏

エイトール・ヴィラ＝ロボス（1887 ― 1959）

ヴィラ＝ロボスはブラジルのリオデジャネイロの生まれ。幼い頃から音楽に才能を示し、楽器では特にチェロとギターに優れた。30代から作曲活動を本格化させ、1923年以降3回にわたりパリ滞在活動を行う。帰国後ブラジル国内外で活発な演奏会活動を展開するほか、青少年の音楽教育の充実に献身。1959年リオデジャネイロで病没。

解説：長野 俊樹

ヴィラ＝ロボスはきわめて多彩・多産な芸術家だったが、合奏主体の音楽に着目すれば、4つの系列が認められる。1つは「ショーロス」で1920年代に16曲（うち2曲は紛失）が作曲された（ただし異論あり）。2つめは「ブラジル風バッハ」で1930年代―40年代前半。3つめは交響曲や協奏曲。4つめに17曲の弦楽四重奏曲をはじめとする多くの室内楽。

「ショーロスへの序奏」は番号のついたショーロス・シリーズ14曲の創作が一段落した1929年に作曲された。このシリーズ全体のための序奏である。

構成：①本作品の序奏。ゆっくりと第6番の冒頭旋律で始まり、すぐにホルンで第10番の第1部と第2部に現われる旋律、トランペットで第3番の冒頭旋律など。②より速く。③速く。④遅く、サクソフォンとともにギター登場。⑤ゆっくり動いて。⑥遅いワルツ。⑦ギターが旋律を提示し、オーボエが引き継ぐ。⑧とても速く。⑨静まるとギターが締め括りをリードし、イングリッシュホルンが「ショーロス第1番」の最初の4音を奏して終わる。

作曲：1929年
初演：不明
使用楽譜：Eschig
編成：フルート4（ピッコロ持替）、オーボエ2、イングリッシュホルン、クラリネット2、バスクラリネット、アルトサクソフォン、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット4、トロンボーン4、テューバ、ティンパニ、サスペンデッドシンバル、ドラ、シロフォン、ハープ2、ピアノ、チェレスタ、ギター、弦5部

ショーロス 第1番

エイトール・ヴィラ＝ロボス（1887―1959）

ヴィラ＝ロボスの名刺代わり。わが国では、彼の作品の中で（少なくとも今は）いちばん有名でしょう。「典型的なショーロ」という副題があって親しみやすい曲想。ショーロはブラジルの大衆音楽に固有の名称であるが、主要題名の「ショーロス」はより普遍性を目指したヴィラ＝ロボスの造語である。A（ホ短調）― B（ハ長調）― A ― C（ホ長調）― Aという構成。

作曲：1920年
初演：1928年、スペインのログローニョ
編成：ギター独奏

管弦楽のための『映像』より「イベリア」

クロード・ドビュッシー（1862―1918）

ドビュッシーには『映像』と題された曲集が3つある。「映像」はフランス語でイマージュ、英語に訳すとイメージである。第1集と第2集はピアノ独奏用で各3曲（これらもお薦め）。第3集が管弦楽作品で、これも3曲 ―― 「ジグ」、「イベリア」、「春のロンド」からなり、それぞれイギリス、スペイン、フランスを表現している。「イベリア」だけが3楽章あって、演奏会でも録音でも第1曲と第3曲を切り離し、第2曲の3つの楽章だけをとりあげることが多い。イベリアとはイベリア半島、つまりスペインのこと。各楽章の題名は作曲者自身がつけた。

第1楽章「街路を通り小道を通り」＝都会も田舎も祭りに浮き立っている様子。第2楽章「夜の香り」＝夢のように漂う音楽により、香りという、見えず触れず実体のないものを描いてみせるドビュッシーの真骨頂。中断なく第3楽章「祭りの日の朝」＝スペイン色濃厚な踊りの場面。

作曲：1905―08年
初演：1910年、ガブリエル・ピエルネ指揮、コロンヌ管弦楽団
使用楽譜：Kalmus
編成：フルート4（ピッコロ持替）、オーボエ2、イングリッシュホルン、クラリネット3、ファゴット3、コントラファゴット、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、テューバ、ティンパニ、小太鼓、シンバル、タンバリン、カスタネット、グロッケンシュピール、シロフォン、ハープ2、チェレスタ、弦5部

ブラジル風バッハ第4番より前奏曲

エイトール・ヴィラ＝ロボス（1887―1959） シモーネ・メネセスによる混声合唱編曲版（世界初演）

「ブラジル風バッハ」は、前述した「ヴィラ＝ロボスの合奏主体の音楽における系列」の中で、2番目にあげた作品群である。ショーロスよりも、より普遍的なレベルを目指した音楽と見てよい。20世紀のブラジルに足を踏まえてバッハのように作曲しようという、ヴィラ＝ロボスの気概の表れだろう。全9作品。

第4番はピアノ独奏用の組曲で全4楽章。第1楽章「前奏曲」、第2楽章「コラール」、第3楽章「アリア」、第4楽章「ダンス」。完成直後にヴィラ＝ロボス自身による管弦楽版がつくられた。

混声合唱版は本日の指揮者による「前奏曲」の編曲で世界初演。原曲はロ短調、4/4拍子。1小節めの旋律が全体の種子になり、何度も繰り返されながら、音楽が展開されていく。この基本の旋律動機は、J.S.バッハの『音楽の捧げもの』のもとになった主題ープロイセン国王フリードリヒ2世（1712―86）が自ら作曲してバッハに示した旋律に基づくとされる。

作曲：1941年
初演：不明
編成：混声合唱、コントラバス

ショーロス 第10番

エイトール・ヴィラ＝ロボス（1887 ― 1959）

スケールが大きくエネルギーに満ちた、魅力あふれる作品である。管弦楽だけの第1部と合唱が加わる第2部にわかれる。

第1部：和音の強奏、フルートの即興的楽句で始まる。様々な旋律の断片が、いろいろな楽器に現われては消えつつ、世界が次第に息づき、活発化していく。なかには鳥（ピッコロ）や獣（ホルン）の声を連想させる動機もある。クラリネットの即興的楽句に至ったのち、管弦楽全体の最強奏となって休止。

第2部：合唱が加わり、意味のないオノマトペ（擬声語）を絶えずリズミカルに発し、パート相互に巧みに干渉を生じながら、圧倒的な表現空間を形づくる。やがてこのリズム唱とは別に、カンタービレな旋律が現われ、ソプラノ→バリトンとバス→アルト→バリトンとバス→アルト→ソプラノと受け継がれ、和音の強奏で作品全体の終結となる。

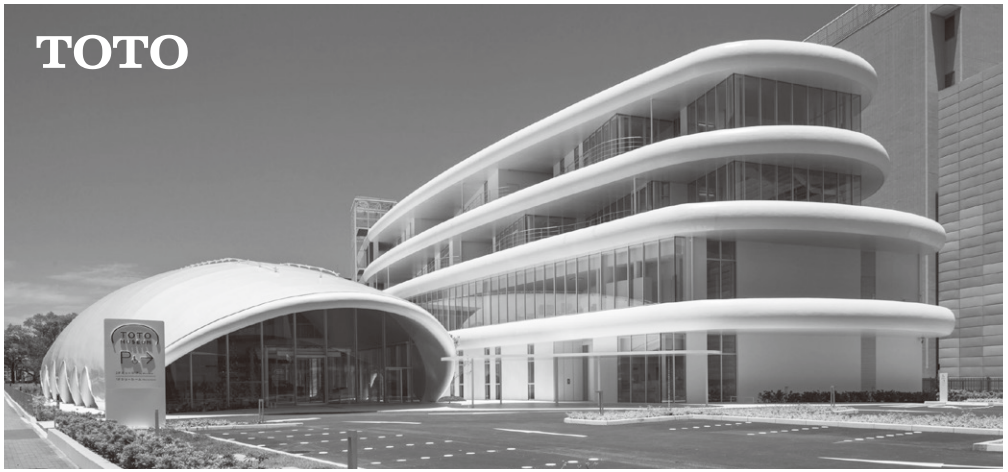
このカンタービレな旋律は、もとはアナクレット・デ・メデイロス(1866―1907)という作曲家の作品に、カツロ・ダ・パイション・セアレンセ（1863―1946）という詩人が詩をつけた「胸が張り裂けそう」という、強烈な苦悩を表現した歌だとのこと。「ショーロス第10番」第2部はその歌に基づき、「張り裂けるのを見よ」という歌詞で終わる。ただし発表後、カツロの遺族との間に著作権問題が発生したため、歌詞なしで、「Ah!」などで歌う場合がある。

なお、ヴィラ＝ロボスに関する日本語で書かれた頼りになる文献は、管見では、木許裕介著『ヴィラ＝ロボス　ブラジルの大地に歌わせるために』（春秋社）しか見あたらなかった。興味のある方は繙いてみてはいかがだろう。

作曲：1926年
初演：1926年11月11日、リオデジャネイロ、作曲者自身の指揮による
使用楽譜：Eschig
編成：フルート2、ピッコロ、オーボエ2、クラリネット2、アルトサクソフォン、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン3、トランペット2、トロンボーン2、ティンパニ、大太鼓、小太鼓、中太鼓、ドラ、クイーカ、カシャンブ、シュカルホ、レコレコ、ハープ、ピアノ、弦5部

演奏会のご感想をお寄せください

第444回定期演奏会のご感想はこちらから



さぁ、TOTOミュージアムへ行こう。

ご利用案内 ※都合により変更となることがありますのでご了承ください。
開館時間／10:00～17:00（入館は16:30まで） 休館日／月曜・夏期休暇・年末年始
入館料／無料 ※団体（20名以上）の場合、貸切バスで来館の場合、要予約
〒802-8601 北九州市小倉北区中島2-1-1
https://jp.toto.com/museum
TEL:093-951-2534 FAX:093-951-2539
無料駐車場完備
詳しい情報はコチラ!
TOTO MUSEUM

人と環境にやさしい都市（まち）づくり
それが私たちの使命です



解体工事の総合管理
matsuda 松田都市開発株式会社
代表取締役社長 坂野 直樹
〒812-0007 福岡市博多区東比恵2丁目18番12号 TEL: 092-411-4811（代） FAX: 092-411-3113
https://www.matsudatoshikaihatsu.co.jp/